

園長だより

台風から学ぶ



23日未明から朝にかけての台風の通過、各地では川の氾濫、土砂災害など甚大な被害がありました。この地域は大きな影響がなかったものの、被害のあった地域の様子から災害の恐ろしさを知り、災害への対応の意識を常に持ち生活する必要性を再確認しました。

保育園には消防、防災、防犯計画等を作成し備えています。訓練の実施に加え、他地域での災害を自園の事として置き換え、災害時の対応を考えていくなどの意識の持ち方が必要とされます。

職員の対応 ～ 気にかけることから

台風前に市内の小学校は20日(金)に休校の決定、周辺の自治体も台風の対応を次々決定していました。保育園はよほどのことがない限り休園の決定がないのが慣例です。

21日(土)職員から連絡が入りました。「昨年の台風の際、下駄箱付近が冠水し正面玄関から入りました」又、当日の朝、別の職員から「早番の先生は来られましたか」と連絡が入りました。交通網の混乱等で職員不在であれば子ども達の受入はできません。万が一の時に職員の体制を維持しようとする意識と心づかいがありました。また、頼もしい事に時間外の先生方は時間にゆとりをもって出勤し受け入れの準備にあたっていました。縁の下の力持ち、黒子に徹するのはこのことです。なにげない行動の中に子ども達の生活を支える責任感と子どもへの思いやりを実感できる場面でした。

さて、ここからは前号に続く内容です。

前号では小学校の音楽教育についてふれました。

1年生の授業内容、器楽(鍵盤ハーモニカ)の取扱い時期や幼児期の教育内容や先取り教育にふれました。今回は2年生の教育内容にふれてみます。 ※市の使用教科書の学習指導計画を参考にしています。

2年生では1年生の積み上げを基に5月頃の授業で「はくのみとまりをかんじとろう」と題材を設定し「音楽に合わせて体を動かしたり、聴いたりして拍のみとまりや拍子の違いを感じる。」2拍子、3拍子を感じながらきいたり、うたったりする学習目標を立てています。その後は「音の高さのちがいをかんじとろう」「拍子をかんじてリズムをうとう」という題材で授業を進め、タンブリンとカスタネットを使って拍リズムに合わせうちます。**アンサンブル(合奏)**についてはこの段階ではまだ出てくることなく基礎的なことの指導となります。

それらしく出てくるのが10月頃から11月中旬に「いろいろな音を楽しもう」という題材(扱い時数8時間)があり、●身近な楽器の音色の特徴を感じながら音楽を聴いたり、音楽の組み合わせを工夫しながら表現したりする。

使用の楽器は

カスタネット	すず
トライアングル	クラベス
ウッドブロック	タンブリン
小たいこ	

前出の楽器を使いリズムうちを楽しむ、又いくつかの楽器(音)の組み合わせを楽しむ内容になっています。



適正な内容を

前号では就学前教育の中で先取り教育について述べました。保育園、幼稚園などでは教育内容の充実をはかろうと先を争うかのように様々な内容をいれてきた経緯があります。鼓笛隊、マーチング、英語、漢字、体操、茶道、華道、あげればきりがありません。知識、技能をのばすこと、情操教育と銘打って様々な教育が施されているのが現状です。先にあげた小学校の音楽教育、基本のプロセスを時間をかけ進んでいます。幼児期よりも理解力、判断力、授業に向かう姿勢が養われている児童が取り組んでいるわけです。

国の定める指針において保育内容には早期教育の内容についてはふれていません。ただ、保育の実施に関わる配慮事項に特に必要な場合には各領域に示すねらいの趣旨に基づいて、具体的な内容を工夫しそれを加えても差し支えないが・・・中略・・・保育所保育に関する基本を逸脱しないよう慎重に配慮する必要があると示されています。

実は早期教育、「なんでもやっていいのではない。」しかし、取り方によっては必要とあれば「なんでもやってよいともとれます。」

ここに大きなズレがあり、園の方針であれば教育の中で反映してしまうこととなります。

私は他園でみられる(すべてではありません)

教育重視を否定つもりはありませんが保育の本質である「遊びと生活」を重視したこれまでの養護と教育が一体になった保育、保育実践を大切に、主体的な遊びを中心とした教育的活動が望ましいと考えます。

教育内容(保育)については便り3号「これからは」で述べました。

「これからは」

音楽の領域に限らず、開園当初から積み上げてきた保育内容を吟味し振り返り、再編していくことが必須の課題となっています。ここでご理解いただきたいことは根幹から保育園の方針ががらりとかわるものではないということです。

開園(今から15年前)から現在まで積み上げてきたものをベースに子ども達が主体的に、そして将来に通じる様々な力の獲得を発達に即し教育的内容を考え、実践していくこととさせて頂き下さい。

ここまで週1のペースで便りを出してきました。堅苦しい文面に読み手の皆様の苦勞が伝わってきます。申し訳ありません。

考えていることを文章にする。黙ってはいひとつも伝わらない、おぞらの園長は「こんなこと考えているんだ」と思っていただければ幸甚です。

さあ、実りの秋、食欲の秋、天候も回復、子ども達とともに秋を大いに感じましょう!

次号は音楽から離れた話題で・・・